

12 性の多様性について一緒に考えよう

あなたのまわりにLGBTQの人はいますか？「いない」と答える人が多いかもしれませんが、同性が恋愛対象となる人や、出生時に割り当てられた性と自分が認識する性が異なる人などが、一定の割合でいることがわかっています。「いない」のではなく「言っていない」だけかもしれません。誰もが互いの性の多様性を認め合い、それぞれを尊重し合える環境を作るにはどうしたらよいか、ワークをとおして考えてみましょう。

ワーク 1

(1) 性の多様性を理解する上で知っておきたい言葉があります。次のそれぞれの言葉の説明として当てはまるものを選んで書きましょう。

- ① シスジェンダー ()
- ② トランスジェンダー ()
- ③ レズビアン ()
- ④ ゲイ ()
- ⑤ バイセクシュアル ()
- ⑥ アセクシュアル ()
- ⑦ SOGI ()

- ㊦ 出生時に割り当てられた性と自認する性が一致している人
- ㊧ 性的指向(好きになる性)と性自認(自分自身が認識している性)
- ㊨ 無性愛者(いかなる他者も恋愛や性愛の対象とならない人)
- ㊩ 両性愛者
- ㊪ 出生時に割り当てられた性と自認する性が異なる人
- ㊫ 女性同性愛者
- ㊬ 男性同性愛者

(2) 次の問いについて正しいものには○、間違っているものには×を書きましょう。

- ① すべてのLGBTQは物心ついたときからその自覚をもっている。 ()
- ② LGBTQは家族を持てる。 ()
- ③ 同性愛は時間が経てば治る。 ()
- ④ 性的マイノリティはLGBTQである。 ()
- ⑤ LGBTQの人たちは40人学級に2～3人いると言われている。 ()

ワーク 2

文章を読んで質問に答えましょう。

Aさん、Bさん、Cさん（全員女子生徒）は、同じ部活動でとても仲がよいです。部活動が終わるといつも一緒に帰って、学校の話や趣味のゲームの話をしています。ある日、恋愛に悩んでいるAさんが、BさんとCさんに相談をしました。Cさんは親身になって答えていましたが、Bさんの回答は「①ふーん、そうなんだ…私は男子に興味ないんだよね。」でした。CさんはBさんの素っ気ない返答に悲しくなりましたが、中学生のころ好きな男子生徒の話になったとき、「好きな男子？そんなことを言われても、好きな人いないからわからないよ。」と言っていたことを思い出し、Bさんは今も恋愛に興味がないんだと思いました。

Cさんが体調を崩してしばらく学校を休んでいました。AさんとBさんが二人で帰っているとき、Bさんは「②Cのことがすごく心配。Cのことが好きなんだ。恋愛対象として・・・。」とAさんに告げました。

(1) 下線部①について、Bさんはどのような気持ちで言ったと思いますか。

(2) 下線部②を、Bさんから言われたAさんはどのような気持ちになったと考えられますか。

(3) 下線部②について、あなたがAさんだったら、どのようにBさんに返答しますか。

ワーク 3

文章を読んで質問に答えましょう。

共通の趣味があるDさん、Eさん、Fさん（全員男子生徒）は仲が良く、毎週末趣味の話をするために集まります。ある日、EさんはDさんから「好きです。付き

合いたいです。」と想いを伝えられました。答えに困ったEさんは「考えておく」と伝えました。悩んだEさんはFさんに相談しました。Eさんは「付き合うのはムリ。何て言えばいいんだろう。」と言い、①Fさんは返答に戸惑いましたが「付き合うことはできないけど、これからも友だちでいようって言うてみれば？」と提案しました。

数日後、Eさんは②別の友人が笑いながら「DがEのこと好きらしい。」と言っているのを聞きました。どうやら③Fさんは複数の友人に話をし、うわさが広まったようでした。EさんはDさんと、その後連絡が取れなくなってしまいました。

(1) 下線部①についてあなたがFさんだったらどのように返答しますか。

(2) 下線部②についてあなたはどのように思いますか。

(3) 下線部③についてFさんのとった行動についてあなたはどのように思いますか。

ワーク 4

今日の学習をとおして、感じたことや考えたことを書きましょう。

解説 性の多様性について一緒に考えよう

1 ねらい

性的マイノリティに対する理解は増えてきているが、まだ差別や偏見はたくさんある。差別や偏見は、思い込みや知識不足が引き起こす。このワークをとおして、多様な性について興味をもち、もしかしたら身近にいるかもしれない、もしかしたら自分のことかもしれないということを生徒に気づいてもらい、相手を思いやる言葉かけをし、正しい知識を得るために情報収集のアンテナを張って欲しい。学校に潜在的にいる性的マイノリティの子どもたちは「自分は普通ではない」と思い、一人で悩んでいるかもしれない。関わるまわりの人が正しい情報を知り、性的マイノリティについて考えることで、固定観念や知識不足による嫌悪感を取り除き、差別や偏見をなくし、それぞれの個性を大事にその人らしさを尊重できる社会にしていきたい。

2 進め方

展開例 (50分)

学習活動	指導上の留意点
1 ワーク1 (10分) ① (1) 性の多様性についての言葉の説明を記号で選び、答える。 ② (2) 性の多様性に関する知識問題を○×で答える。 ③ 答え合わせをし、説明を聞く。	○ すべてにおいて「普通」という言葉を使わない。 ○ 当事者がいることを想定し、グループワークは避ける。 ○ 授業やメディアであまり取り上げられないことのない①⑥⑦の説明を重点的に行う。
2 ワーク2 (15分) ① ワーク2を読み(1)(2)(3)について、自分の考えを記入する。 ② 解説を聞く。	○ 説明や解説を加えずに、思ったまま書かせる。 ○ 正解や不正解ではなく、書いた考えや言葉で相手を傷つけていないかどうかを

<p>3 ワーク 3 (15 分)</p> <p>① ワーク 3 を読み (1)、(2)、(3) に自分の考えを記入する。</p> <p>② 解説を聞く。</p> <p>4 ワーク 4 (10 分)</p> <p>① 振り返りを書く。</p> <p>② まとめを聞く。</p>	<p>再確認させる。</p> <p>○ カミングアウトに関しては解説を参考に否定的な言葉をかけず、受け止めた合図としてうなずくことなどを促す。</p> <p>○ アウティングは絶対にしてはならないことを伝える。抱えきれない場合は信頼できる大人や相談機関に相談するように促す。</p> <p>○ 振り返りを書く時間をしっかりと取る。</p> <p>○ 普段から自分の行動や発言に注意するように促す。</p> <p>○ アライ (ALLY) について説明する。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 解説

ワーク 1 (1) について 解答

- ① シスジェンダー (㉞)

この言葉は、トランスジェンダーの対義語。出生時に割り当てられた性と自認する性が一致している人、違和感や距離感を抱かない人を指す。

- ② トランスジェンダー (㉟)

出生時に割り当てられた性と自認する性が異なるという感覚をもっている人を指す。感覚を一致させるために性別適合手術を強く望む人もいれば、望まない人もいる。自認する性に合った服装や言葉遣い、行動をして、周囲から自認する性と一致した存在として認識されることで、自分のもつ性別違和感を軽減・解消する人もいる。

- ③ レズビアン (㊱)

同性愛者のうち、自認する性は女性で、好きになる性が女性という人を指す。からだの性が男性でも自認する性は女性で、好きになる性が女性という場合がある。

- ④ ゲイ (㊲)

同性愛者のうち、自認する性は男性で、好きになる性が男性という人を指す。からだの性が女性でも自認する性は男性で、好きになる性が男性という場合がある。

- ⑤ バイセクシュアル (㊥)
両性愛者、つまり好きになる性が異性の場合も同性の場合もある人を指す。
- ⑥ アセクシュアル (㊦)
いかなる他者も恋愛や性愛の対象とならない人を指す。
- ⑦ SOGI (SOGIE) (㊧)
SOGI (ソジやソギ、ソジーやソギーと読むことが多い)は性的指向(好きになる性)と性自認(自分がどんな性別と思うかという認識)のことで、性の多様性を指す。
性の多様性を表す言葉は、このほかにもXジェンダー(自認する性を男性・女性のいずれかとは認識していない人、どちらでもあると自認している人、男性・女性の間であると自認している人、男性女性のどちらでもないと自認している人など)、クエスチョニング(自分自身の性が決められない、わからない、あえて決めない人)等あり、すべての人がどれかに当てはまるわけではないし、当てはめなければならないものでもない。組合せによっては多様であり、グラデーションで存在していると考えられている。
- ※ このほかにも、複数のセクシュアリティを好きになる(好きにならないセクシュアリティもある)「ポリセクシュアル」、好きになるのにセクシュアリティは関係ない「パンセクシュアル」がある。

ワーク1 (2) について 解答

- ① すべてのLGBTQは物心ついたときからその自覚をもっている。 (×)
自分の性に気づく年齢には個人差がある。就学前から自覚する人もいれば、成人してから、結婚や出産、定年などを契機に気づく人もいる。
- ② LGBTQは家族を持てる。 (○)
現在の日本では同性間の婚姻は認められていないが、結婚式をあげたり、ともに生活したりするLGBTQカップルは少なくない。東京都渋谷区とNPO法人「虹色ダイバーシティ」が行った渋谷区・虹色ダイバーシティ全国パートナーシップ制度共同調査によると、令和4年1月4日の時点で、全国147の自治体でパートナーシップ制度が導入され、その数は急増している。
- ③ 同性愛は時が経てば治る。 (×)
同性愛は病気ではない。思春期に性がゆらぐこともあるが、成人にLGBTQが存在することからもすべての性のゆらぎが一過性で、時間とともになくなることはない。ポリセクシュアル、パンセクシュアルの可能性もある。
- ④ 性的マイノリティはLGBTQである。 (×)
性的マイノリティの総称として、LGBTQを用いることもあるが、性的マイノリティとはシスジェンダーで異性愛者以外の人のことである。性的マイノリティにはLGBTQに含まれない性分化疾患やアセクシュアルなどの人もいる。なお、マイノリティという言葉には単に数が少ないというだけでなく、社会的弱者という意味合いもある。
- ⑤ LGBTQの人たちは40人学級に2~3人いると言われている。 (○)
調査方法によって変動するため正確な数字の把握は困難であるが、国内では人

口の5～8%、約13～20人に1人がLGBTQと考えられる。

ワーク2（1）について

記入時の相談や記入内容の共有はせず、思うままに書くよう促す。「恋愛に興味がない」「疲れているから機嫌が悪かった」「二次元が好き」等、様々な答えが出るかもしれない。このワークは個性の尊重をめざすものである。恋愛をすることが普通、異性と恋愛をすることが普通ではなく、恋愛に対して様々な考えが出て良く、否定はできない。

Bさんは、下線②からLGBTQと推測される。恋愛話は異性愛者であることが前提になっており、LGBTQの子どもたちは誰かを好きになったときに「自分ってキモいのかな?」「誰かにバレたらどうしよう」などの心配や不安をもつことも多く、その悩みを誰にも相談できない、または相談をして嫌な思いを経験する子どもたちも少なくないことを知って欲しい。

ワーク2（2）について

突然の告白により、Aさんの動揺は十分に察することができる。設問では、客観的に考えるようになってきているが、もし、自分がAさんの立場だったらどのような心境になるか考え、2（3）に繋げてほしい。

ワーク2（3）について

告白の内容を予想していなかった場合は驚いて何も言えないかもしれないが、否定的な言葉は絶対にかけないよう指導する。性的マイノリティに限らず、シスジェンダーでも、また恋愛話だけではなく、どのような話でも、信頼して話している人に否定的な言葉をかけられると傷つく。カミングアウトをされてどのように答えてよいかわからない場合は、気持ちを受け止めたということを示すために、黙ってうなずくなどが考えられる。

カミングアウトをするときの気持ちはおおむね2つに大別できる。1つめは、「知って欲しい」型。「何かをして欲しいのではなく、ただ知っていてほしかった」「信じているからありのままの自分を開示したかった」など言い方は様々だが、自分のことを知って欲しいという動機でカミングアウトをする。もう1つは「困っている」型だ。困っていることがあり、対応をして欲しくてカミングアウトをする場合である。

ワーク3（1）について

異性を好きになる人、同性を好きになる人、様々な「好き」があることを知る必要がある。異性・同性にかかわらず、相談された場合・告白された場合にかかわらず、否定的な言葉は使わない。また相手が傷つかないような返答を心掛けるように促す。言葉が見つからないときは、うなずきながらひたすら聞き、気持ちを受け止めて一緒に考える。

ワーク3（2）について

「自分がセクシュアルマイノリティであることを打ち明けること」がカミングアウト

トであるが、この例ではカミングアウトしたことに對して、アウトティングされてしまった。アウトティングとは他人の秘密を本人の許可なく別の人に言うことだが、人のセクシュアリティを勝手に第三者に言いふらすという意味で使われる。生活の中で性的マイノリティが笑いの対象とされることはたくさんある。普段から大人自身が性的マイノリティを笑いの対象にしないことはもちろん、生徒にもしないよう指導する。また、アウトティングをすることは絶対に許してはならない。

ワーク3 (3) について

カミングアウトされた人が受け止めきれず、またどうしたらよいのかわからずに苦しむ場合もある。その結果、友人に相談し悪気がなくアウトティングにつながる恐れもある。困ったときには、まわりの信頼できる大人や相談機関に相談するように促す。

ワーク4について

・カミングアウト

カミングアウトを受けたときには、そのことを本人の了解を得ないでほかの人に漏らすということのないようにする。また、カミングアウトはとても勇気のいる行為であるため、生徒からカミングアウトされたときは「よく話してくれたね、ありがとう。」と伝えて欲しい。

・ALLY(アライ)

ALLY(アライ)とは、「同盟、支援」を意味する。LGBTQの当事者ではない人が、LGBTQに代表される性的マイノリティを理解し支援するという考え方、または当事者である人が理解を示し支援することでそうした立場を明確にしている人々を指す言葉である。最近では、LGBTQに限らず障がい者や外国人といったマイノリティに対しても支援を表明しようと、アライを使うことがある。アライと表明しなくても、心の中でアライを実践して欲しい。すべての人たちの価値観と向き合い、それぞれの個性を大事にし、その人らしさを尊重できる社会になるよう、多様性を認めることのできる資質・能力を育てることが大切である。

指導にあたっての配慮事項

「性の多様性」についての学習を行う場合、日常の教育実践の中で、互いの違いを認め合い、自分らしさを大切にする素地づくりが不可欠である。

指導にあたっては、人権を意識した教師の言動の見直し、学校生活における男女区分の再点検、違いを認め合う集団づくり、人権教育推進体制・相談・サポート体制の整備など、学校組織全体での取組みが必要である。

<引用文献>

- ・「改訂新版LGBTってなんだろう？－自認する性・からだの性・好きになる性・表現する性」 薬師実芳・笹原千奈未・古堂達也・小川奈津己 著 合同出版 令和元年5月

<参考資料>

- ・「はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで」
石田仁 著 株式会社ナツメ社 平成31年2月
- ・「日常の「ホモ」「おかま」「レズ」という言葉に傷ついている人がいます。」
認定NPO法人SHIP 平成27年
http://ship-web.com/presence/presence_letter_2015.pdf
- ・「LGBTサポートブッカー学校・病院で必ず役立つ」
はたちさこ・藤井ひろみ・桂木祥子 編著 株式会社保育社 平成28年3月
- ・「僕たちのカラフルな毎日－弁護士夫婦の波瀾万丈奮闘記」 南和行・吉田昌史 著
株式会社産業編集センター 平成28年4月
- ・「境界を生きる 性と生のはざままで」 毎日新聞「境界を生きる」取材班 著
毎日新聞社 平成25年2月
- ・「ハートをつなごう」LGBT BOOK NHK「ハートをつなごう」制作班 監修
株式会社太田出版 平成22年8月
- ・「僕が夫に出会うまで」 七崎良輔 著 文藝春秋 令和元年5月
- ・「元女子高生、パパになる」 杉山文野 著 文藝春秋 令和2年11月
- ・「たまひよ トランスジェンダーの僕が、赤ちゃんを授かるまで」
平山ゆりの <https://st.benesse.ne.jp/ninshin/content/?id=35599>
- ・「LGBTとハラスメント」
神谷悠一・松岡宗嗣 著 集英社新書 令和2年7月
- ・「職員のための性自認及び性的指向に関するハンドブック」 東京都総務局
<https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/10jinken/base/upload/pdf/R1handbook.pdf>
- ・認定NPO法人ReBit <https://rebitlgbt.org>
- ・「誰もが自分らしく輝くために～多様な性のあり方と人権～」
鳥取県教育委員会 令和2年3月
- ・「性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅱ」 倉敷市教育委員会 平成30年3月
- ・「性的マイノリティについて理解する～あなたが相談されたらどうしますか？～」
神奈川県教育委員会 令和元年11月
https://www.pref.kanagawa.jp/documents/5844/seimai_r2.pdf
- ・認定NPO法人虹色ダイバーシティ
<https://nijibridge.jp/data/>